

# 京都駅西部エリア活性化将来構想

～多彩な地域資源をつなげ、京都の新しい賑わいを創出するまちに向けて～



全ての居住者が安心して暮らし、文化を楽しむまち



新しいビジネス・活気を生み出すまち



幅広い世代の人々が多く集まり、楽しめるまち



京都市  
CITY OF KYOTO

## 「京都駅西部エリア活性化将来構想」の策定に当たって



京都市長 門川 大作

「多彩な地域資源をつなげ、京都の新しい賑わいを創出するまち」—これが、本将来構想に掲げた京都駅西部エリアの将来ビジョンです。

平安京の昔から重要な都市機能が集積していた本エリアでは、その歴史の中で、京都で最初の鉄道駅ができ、日本初の中央卸売市場が開市し、最先端技術を誇る企業が集積するリサーチパークが開設され、さらには平安建都1200年を記念した梅小路公園が整備されるなど、常にその時代を牽引する新たな資源が創られてきました。

このような多彩な地域資源をいかして更なる「賑わい」を創出し、本エリアを一層活性化することが、京都全体の飛躍へとつながる。そんな強い確信の下、この「京都駅西部エリア活性化将来構想」を策定しました。

本将来構想は、20年後、30年後、さらには平安建都1300年に向けて、将来ビジョンと概ね今後10年間で取り組むべき方策をまとめたものです。

策定に向けた検討を進める間に、本エリアへのアクセスを格段に向上させるJR新駅の設置が具体化へと動き出しました。平成28年春には、国内最大級の京都鉄道博物館が開業し、本エリアのポテンシャルはますます大きくなります。

加えて、京都駅を中心としたエリアで見ると、今後、同駅南口駅前広場の整備や京都市立芸術大学の移転も予定されています。また、平成32年には東京五輪が開催され、海外からの来訪者がより一層増加すると見込まれます。

このような動きと一体となって、特に前半5年間に強力に取り組を推進し、本エリアで大きく高まっている活性化の機運を確実な流れとしていかなければなりません。今後この構想を基に、産・学・公・地域など全ての主体の叡智を結集し、スピード感を持って取り組を進めてまいります。

結びに、「京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会」の皆様をはじめ、計画策定に携わっていただきました関係者の皆様、パブリック・コメントに貴重な御意見や御提案をお寄せくださいました市民の皆様、事業者・団体の皆様に、心から御礼を申し上げます。

# 目次

## I はじめに

1 構想策定の背景と目的	1
2 構想策定の基本事項	3

## II エリアのポテンシャルと課題

ポテンシャルと課題の概要	5
1 居住	6
2 業務	7
3 集客	8
4 交通	9
5 地域連携	10

## III 京都駅西部エリアの将来ビジョン

1 活性化に向けた取組イメージ	11
2 2つの仕組み	13
3 8つの方策	17

## IV 進捗管理

## V 参考資料

1 検討経過	30
2 市民意見の募集	31
3 京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会 委員名簿	32

## 1 構想策定の背景と目的

京都駅西部エリア（以下「本エリア」という。）は、古くは平安京の南部に位置し、南北に貫く都のメインストリート・朱雀大路を中心に、東西の市や鴻臚館などの重要な都市機能が集積した地域である。

現在も、平安建都 1200 年記念事業として整備された梅小路公園をはじめ、京都市中央卸売市場第一市場（以下「京都市中央市場」という。）や京都リサーチパーク（KRP）、商店街、文化・観光施設、寺社、大学といった多彩な地域資源が集積しており、京都の成長戦略を推進し、都市格を高めていくうえで大変重要な地域となっている。

とりわけ梅小路公園界わいでは、京都水族館や京都鉄道博物館など、民間事業者による大きな集客施設の整備が進む一方で、京都市も、梅小路公園の拡張再整備や、京都市中央市場の施設整備及びそれに伴う「賑わいゾーン」の創出に向けた取組を進めている。

また、地元や商工会議所から強い要望を受け、JR嵯峨野線 京都・丹波口間の七条通付近への新駅（以下「JR新駅」という。）設置が、平成31年春の開業に向けて動き出している。このJR新駅にターミナル機能を持たせ、それを軸として、本エリアのアクセスが格段に向上し、今ある多彩な地域資源や新たな集客施設との相乗効果により、更に大きな人の流れが創出される。

このように、民間活力と京都市の施策が融合する中で、大きく高まっている活性化の機運を確実な流れとするためには、市民、企業、関係団体が長期的な見地に立った将来ビジョンを共有し、叡智を結集して本エリアの活性化に取り組む必要がある。

そのために、本エリアの将来ビジョンと概ね今後 10 年間で取り組むべき方策を明らかにし、前半5年間に、核となり、先導的な役割を果たす取組を強力に推進していくことにより、京都駅の東部エリア等、周辺地域の活性化の動きと一体となって、20 年後、30 年後、さらには平安建都 1300 年に向けて、京都全体の大きな飛躍につなげていくことを目的として、「京都駅西部エリア活性化将来構想」を策定するものである。



## 2 構想策定の基本事項

### ■ 期間

長期的な見地に立った将来ビジョンを設定するとともに、その実現に向けて、概ね今後 10 年間（平成 27 年度～平成 36 年度）で取り組むべき具体的方策をとりまとめた。

特に、平成 32 年に東京五輪が開催され、海外からの来訪者もより一層増加すると見込まれることも見据えて、前半 5 年間（平成 27 年度～平成 31 年度）に強力に取り組を推進する。

### ■ 対象エリア

北は五条通、南は JR 京都線、東は烏丸通、西は西大路通に囲まれたエリア（次頁 点線で囲まれたエリア）を中心とし、その周辺にある「東寺」や「壬生寺」等までを含めたエリア（次頁 青線で囲まれたエリア）を「京都駅西部エリア」と位置付け、対象エリアとした。

### ■ 策定の考え方

すべての地域主体が将来ビジョンを共有し、  
民間活力と京都市の施策を融合させる。

- 1 これまで「課題」と考えてきたことを「ポテンシャル」として捉え直す。
- 2 個々の資源のポテンシャルをいかす、  
また、それらを結びつけることによって新たな可能性を追求する。
- 3 本エリアに限定するのではなく、常に他のエリアとの連携を図り、  
他のエリアへの波及効果を追求する。
- 4 適切な時期に、具体的な指標により活性化の達成状況を検証して、  
取組を見直し、それを実行するというサイクルを確立する。



## II エリアのポテンシャルと課題

### ポテンシャルと課題の概要

#### 居住

##### ポテンシャル

- 梅小路公園等, 緑やうるおい豊かな空間
- 商店街や病院等, 充実した生活利便施設

##### 課題

- 高齢化への対応, 新たに転入してきた居住者との調和
- 空き家等の活用, 流通の促進

#### 業務

##### ポテンシャル

- 京都駅周辺への商業・業務機能の集積
- 産学公連携と新産業創出の拠点・KRP
- 京都の食文化を支える京都市中央市場

##### 課題

- KRPを核とした業務機能の強化
- 京都市中央市場を強みとした食の取組の推進
- 商店街の活性化

#### 集客

##### ポテンシャル

- 数多くの魅力的な歴史・文化資源 (東・西本願寺, 島原, 龍谷ミュージアム等)
- 新たな集客施設 (京都水族館, 京都鉄道博物館 等)
- 鉄道の聖地 (様々な車両が行き交う光景 等)

##### 課題

- 歴史・文化資源の保存・継承と魅力の再発見
- 低・未利用地の活用の促進 (公有地・民有地を問わず)

#### 交通

##### ポテンシャル

- 京都の玄関口であるJR京都駅
- 七条通付近におけるJR新駅設置

##### 課題

- 本エリアへのアクセスの向上 (大きな回遊)
- エリア内の回遊性の向上 (小さな回遊)

#### 地域連携

##### ポテンシャル

- 多様な地域主体による活性化に向けた動き

##### 課題

- 多様な地域主体が連携して活性化に取り組む仕組みの構築



# 1 居住

交通アクセスが良く、良好な住環境が形成されているため、京都駅周辺エリアで単身世帯が、梅小路西エリアではファミリー層が増加し、住宅系の土地利用が大幅に増えている。その一方で、全市的な傾向と同様、高齢化が進んでいることもあり、空き家率も高くなっている。

## ■ ポテンシャル

### ● 緑やうるおい豊かな空間

梅小路公園や東・西本願寺等、都心部でありながら、緑あふれる施設や広大な空間があり、身近にうるおいを感じられる環境がある。

### ● 充実した生活利便施設

商店街や商業施設、病院、福祉施設等、生活利便施設が充実している。

## ■ 課題

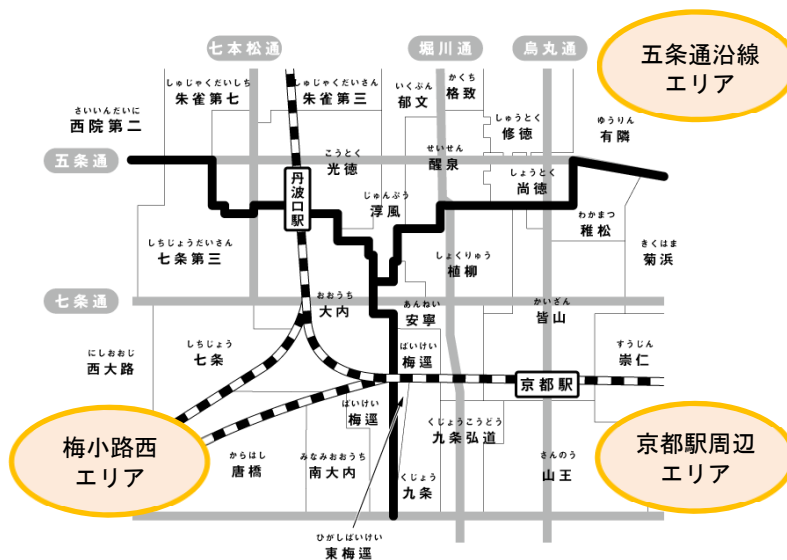
### ● 高齢化への対応、新たに転入してきた居住者との調和

居住層の変化に対応し、多様な世代や嗜好を持った人々が、安心・安全で幸福を実感できるまちを目指す。

新たな住民も取り込んだ形で、地域住民相互のつながりを強化し、地域コミュニティの活性化を図る。

### ● 空き家等の活用、流通の促進

京都らしい町並みを保全・再生しながら、空き家等の活用・流通の促進を図り、多様なニーズに対応できる居住空間を創出する。



## 2 業 務

京都駅周辺エリアでは、事業所集積が進捗し、小売業年間販売額も増加している。その一方で、商店街や京都市中央市場が立地している梅小路西エリアでは、事業所・従業者数が減少し、小売業年間販売額も大きく減少している。

### ■ ポテンシャル

#### ● 京都駅周辺への商業・業務機能の集積

他都市からのアクセスの良さ等を背景として、京都駅周辺を中心に、商業・業務機能が集積している。

#### ● 産学公連携と新産業創出の拠点・KRP

KRP<sup>\*</sup>は、平成元年のオープン以降、順調に入居者を増やし、「産学公連携拠点・新産業創出拠点」として機能している。

※ 以下「KRP」と記載する場合は、京都リサーチパークという敷地又はその敷地にある施設（京都リサーチパーク株式会社、京都市産業技術研究所、京都高度技術研究所等）の集合体を指す。

#### ● 京都の食文化を支える京都市中央市場

「和食」のユネスコ無形文化遺産登録を機に、京都・日本の食文化の価値が再認識され、その継承・発展の機運が高まっている。

京都市中央市場は、昭和2年に日本で最初の中央卸売市場として開市して以降、京都の食文化を支える流通拠点として機能している。現在、施設整備が検討されており、水産棟は平成31年度に、青果棟は平成37年度に完成する予定である。

また、京都市中央市場内に、食に関する施設として、平成24年に「すし市場」、平成25年に「京の食文化ミュージアム・あじわい館」が、平成26年7月には、京都市中央市場の周辺に「KYOCA（京果会館）」が相次いでオープンした。

### ■ 課 題

#### ● KRPを核とした業務機能の強化

KRPがあることの強みをいかし、その周辺において民間事業者・研究機関の集積を図るとともに、KRPと周辺事業者のつながりを強化し、新事業の創出を図る。

#### ● 京都市中央市場を強みとした食の取組の推進

京都市中央市場直送の強みをいかし、周辺の施設・事業者が連携して、食による新たな賑わいを創出する。

#### ● 商店街の活性化

地域住民の高齢化や生活様式の変化に対応するとともに、周辺施設への来訪者を呼び込む。地域コミュニティ活性化の重要な担い手としての役割を積極的に果たす。

# 3 集客

世界文化遺産や国宝，重要文化財等，数多くの魅力的な歴史・文化資源，市民の憩いの空間である梅小路公園，京都水族館など，幅広い世代が楽しめる多様な集客施設が集積している。平成28年春には，京都鉄道博物館が開業する予定であり，更なる集客が見込まれる。

## ■ ポテンシャル

### ● 数多くの魅力的な歴史・文化資源

世界文化遺産や国宝，重要文化財である東・西本願寺，角屋，東寺，壬生寺や，京都をつなぐ無形文化遺産「京・花街文化」に選定された島原エリア，これまでに例のない仏教総合博物館である龍谷ミュージアムなど，歴史的・文化的価値を有する資源が多数存在している。

### ● 新たな集客施設

平成24年3月に京都水族館が開業し，平成26年3月には，梅小路公園に「すざくゆめ広場」「市電ひろば」の2つの新広場が開園した。平成28年春には，梅小路公園に，国内最大級の京都鉄道博物館が開業する予定である。

### ● 鉄道の聖地

貴重な動態保存蒸気機関車等，日本の鉄道の歴史を体験できる梅小路蒸気機関車館があり，平成28年春には，京都鉄道博物館が開業する予定である。また，JR京都駅や東海道本線・山陰本線沿線では，様々な種類の車両が行き交う光景が見られるなど，「鉄道の聖地」と呼ぶにふさわしい地域である。

## ■ 課題

### ● 歴史・文化資源の保存・継承と魅力の再発見

歴史・文化資源を保存・継承するとともに，既存の資源の新たな魅力を発見し，発信する。

### ● 低・未利用地の活用の促進

公有地・民有地を問わず，現在十分に活用されていない，あるいは，今後生じる低・未利用地について，魅力的なイベントや集客施設を積極的に誘致する。

## 4 交通

「居住」、「業務」、「集客」等、様々な人の流れを生み出すためには、本エリアへのアクセスが良く、エリア内を回遊しやすいことが重要である。

平成31年春には、七条通付近に新駅が設置される予定であり、アクセスの格段の向上、更なる大きな人の流れの創出が見込まれる。

### ■ ポテンシャル

#### ● 京都の玄関口であるJR京都駅

京都の玄関口であるJR京都駅があり、他都市から本エリアへのアクセスが良い。

なお、JR西日本の1日当たり乗車人員（平成25年度）では、京都駅は、大阪駅に次いで2位と多くの利用者があり、かつ近年増加傾向にある。

#### ● 七条通付近におけるJR新駅設置

本エリア内の鉄道駅（JR京都駅・丹波口駅・西大路駅、地下鉄京都駅・五条駅）は、いずれもエリアの周辺部にあり、中央に位置している梅小路公園にアクセスするには不便であるが、七条通付近におけるJR新駅の設置により、歴史的都心地区、市外等から、梅小路公園周辺をはじめ、本エリアへのアクセスが格段に向上する。

### ■ 課題

#### ● 本エリアへのアクセスの向上（大きな回遊）

本エリアを活性化し、京都全体の飛躍につなげていくために、七条通付近におけるJR新駅を軸として、更にアクセスを向上させ、歴史的都心地区との結節性を高めることにより、市内の他のエリアを訪れた観光客を本エリアに呼び込む、あるいは、本エリアへの来訪者を市内の他のエリアに誘導する。

#### ● エリア内の回遊性の向上（小さな回遊）

来訪者にエリア内を回遊してもらうために、「より安全に」「より楽しく」歩くことができ、また、快適に自転車で走行できる環境を整備する。

## 5 地域連携

この将来構想に掲げる方策を着実に推進し、本エリアを活性化していくためには、すべての地域主体が将来ビジョンを共有したうえで、自らが取り組むべき事柄を実行するとともに、その動きを有機的に連携させていくことが必要である。

### ■ ポテンシャル

#### ● 多様な地域主体による活性化に向けた動き

本エリアには、様々な施設や団体、事業者、大学等が存在し、それぞれに、活性化に向けた活発な動きがある。また、地域主体が連携した新たな取組も行われている。

### ■ 課題

#### ● 多様な地域主体が連携して活性化に取り組む仕組みの構築

多様な地域主体が、本エリアの将来ビジョンを共有し、各々が果たすべき役割を認識したうえで、連携によるまちづくりを進めていく仕組みを構築する。

### 「下京・京都駅前サマーフェスタ」

京都駅ビル開発(株)、浄土真宗本願寺派（西本願寺）、真宗大谷派（東本願寺）、下京区役所で構成する「下京・京都駅前サマーフェスタ実行委員会」が主催。地域の参加によりみんなで作る下京の夏の一大イベントで、多種多様な地域主体が連携し、平成26年度は3回目の開催となり、下京の夏の風物詩として定着しつつある。

京都駅ビル、西本願寺、東本願寺の3会場で、ステージイベントや夏野菜の物販コーナー、盆踊り、「食・アート・防災」をテーマにしたマーケットなどを開催。



### III 京都駅西部エリアの将来ビジョン

## 1 活性化に向けた取組イメージ

### ■ 将来ビジョンと3つの活性化イメージ

本エリアは、歴史あるもの“京都らしさ”と時代の最先端を行くもの“新しさ”が併存しているエリアであり、それ故、多彩な地域資源を有し、施設や団体、事業者、大学など、様々な地域主体が存在している。こうした状況を本エリア最大のポテンシャルとして捉え、次のとおり将来ビジョンを設定する。

**将来ビジョン** 「多彩な地域資源をつなげ、京都の新しい賑わいを創出するまち」

この将来ビジョンを、「居住」「業務」「集客」の視点から、より具体的にイメージしやすくしたものが、次の3つの活性化イメージである。

**活性化イメージ1** 全ての居住者が安心して暮らし、文化を楽しむまち

**活性化イメージ2** 新しいビジネス・活気を生み出すまち

**活性化イメージ3** 幅広い世代の人々が多く集まり、楽しめるまち

### ■ 2つの仕組み

個々の取組を推進していくに当たって、基盤となるのが2つの「仕組み」であり、その重要性に鑑み、10の推進項目を早期に実現する。

### ■ 8つの方策

本エリアの活性化に重要な役割を担う地域資源に着目し、8つの「方策」として取りまとめた。

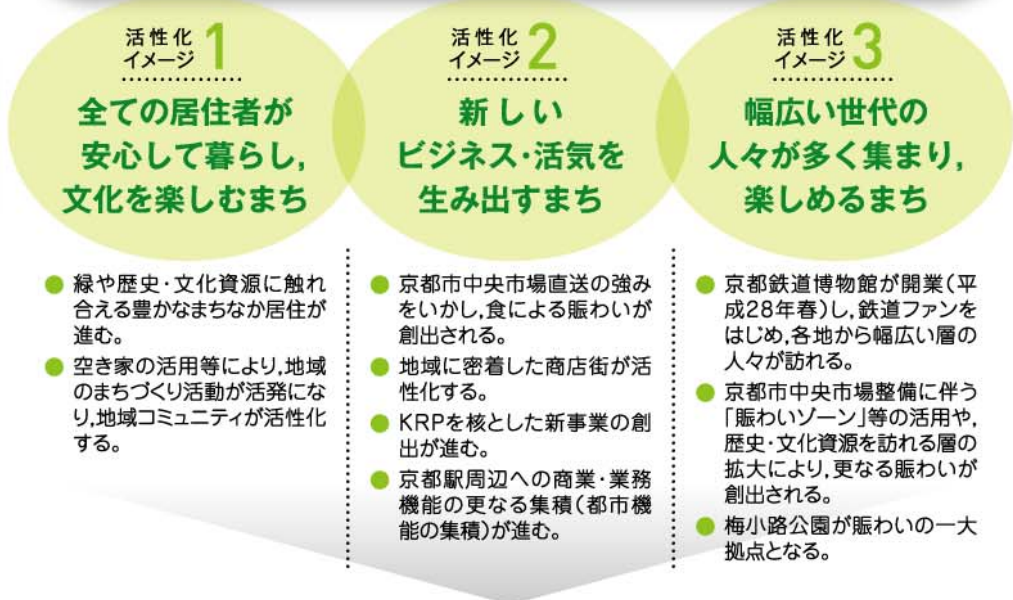
8つの方策・34の推進項目を強力に推進するとともに、それぞれの方策を結びつけることにより、相乗効果を生み出す。

構想の全体像

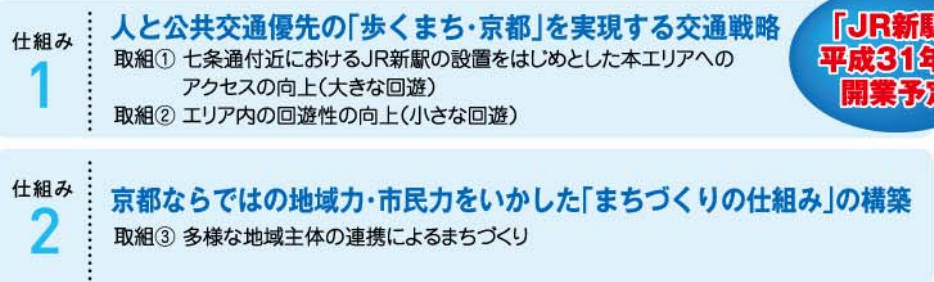
将来  
ビジョン

将来ビジョン  
多彩な地域資源をつなげ、  
京都の新しい賑わいを創出するまち

活性化  
イメージ



2つの  
仕組み



「JR新駅」  
平成31年春  
開業予定

8つの  
方策



III 京都駅西部エリアの将来ビジョン

## 2 2つの仕組み

### 仕組み ①

### 人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現する交通戦略

今後の高齢化の進展も踏まえ、良好な「居住環境」を維持・向上させるとともに、本エリアの持つ「商業・業務機能」、「文化・観光資源」といったポテンシャルをいかして、エリアを活性化し、京都全体の飛躍につなげていくためには、よりきめ細やかで、戦略的に交通アクセスの充実を図る必要がある。

このため、人と公共交通を優先する「歩くまち・京都」の理念のもと、本エリアと市内各所とをつなぐ「大きな回遊」と本エリア内における「小さな回遊」に分けた、本エリアの交通戦略に取り組む。

#### 取組① 七条通付近におけるJR新駅の設置をはじめとした 本エリアへのアクセスの向上(大きな回遊)

七条通付近におけるJR新駅を軸とした鉄道・路線バス等の公共交通の利便性向上を図ることにより、大きな回遊・アクセス（市外からのアクセス、本エリアと市内観光地等とのアクセス）を向上させる。併せて、車利用から公共交通への更なる転換を図る。



#### 推進項目

### 1 七条通付近におけるJR新駅設置

七条通付近にJR新駅を設置し、本エリアの中央に位置している梅小路公園へのアクセスが向上することをいかして、「住む」、「働く」、「遊ぶ」といった様々な側面から新たな人の流れをつくり、地域の活性化を図る。

併せて、JR新駅周辺において、梅小路公園の再整備、七条通を跨ぐ歩道橋の整備、駐輪場の整備を検討する。



## 2 バスによるアクセスの充実

七条通付近におけるJR新駅と市内各所（歴史的都心地区や他の観光地など）を結ぶ路線バスの系統・便数の改善，案内の充実等を図るとともに，次世代型バスシステムの導入（BRT）等についても検討し，JR新駅の設置，駅周辺の整備と合わせて，ターミナルとしての機能を持たせる。

## 3 京都駅南口駅前広場の整備

京都駅南口（八条口）において，歩行者空間の創出や公共交通の乗継利便性の向上を図り，京都の玄関口にふさわしい，より一層使いやすく，人にやさしい駅前広場となるよう再整備する。

<整備のポイント>

○限られたスペースの有効活用

- ・ 八条通の車線数を減らすことによる歩行者空間や駅前広場空間の創出
- ・ 地下空間を有効利用した機械式地下駐輪場の採用
- ・ 駅前広場の適正な利用のための観光バス・タクシーのショットガン方式の導入

○公共交通の乗継利便性の向上

- ・ 八条通の東西に分散しているバス停を駅正面に集約
- ・ エスカレーター等を設けた屋根付きの拠点広場（デッキ）を駅正面に設置（雨に濡れず駅からバス停へ移動できる）

○快適な歩行者空間の創出

- ・ 段差のないバリアフリー対応の歩行者空間の整備
- ・ 大屋根を備え，豊かな木の文化を感じられる京都らしい拠点広場の設置
- ・ 人が憩える大階段等を設置したアバンティ前のサンクンガーデンの整備

## 4 JR西大路駅のバリアフリー化

1日平均3万人以上の利用があり，京都を代表するモノづくり企業が周辺に立地するJR西大路駅について，高齢者や障害のある方をはじめ，誰もが安心・安全かつ円滑に移動できるよう，駅や周辺の道路等のバリアフリー化整備を進める。

○主な整備内容（予定）

- ・ エレベーターの新設（段差の解消）
- ・ 内方線ブロックの整備（ホームからの転落防止対策）

○今後の予定

- ・ 西大路地区バリアフリー移動等円滑化基本構想策定連絡会議の設置（平成27年度）
- ・ 「西大路地区バリアフリー移動等円滑化基本構想」の策定（平成28年度）
- ・ バリアフリー化整備（平成32年度までに完成）

## 取組② エリア内の回遊性の向上(小さな回遊)

多くの市民や観光客が集まる梅小路公園や京都駅を起点として、エリア内の多彩な地域資源への徒歩や自転車による回遊性を向上させ、地域の魅力発信と活性化を図る。

### 推進項目

#### 1 楽しく回遊できる歩行者環境の整備

鉄道駅からエリア内の各施設まで、あるいは、エリア内の施設から施設まで、安心かつ安全に歩けることはもとより、迷わずスムーズに、かつ、楽しく快適に移動できるよう、ベンチやモニュメント等の仕掛けをつくる。また、エリア内で飲食や休憩ができる場所等の情報を発信する。

#### 2 自転車による回遊性の向上

自転車による回遊性を向上させるため、JR新駅周辺への駐輪場整備、七条通における自転車走行環境の整備や、より利便性の高いレンタサイクルの導入に取り組む。

#### 3 楽しみながら利用できる乗り物による回遊性の確保

楽しみながら利用できる乗り物による回遊性の確保を図るため、ペロタクシーや人力車をはじめとする事業者の誘致等に取り組む。



### 取組③ 多様な地域主体の連携によるまちづくり

本エリアの活性化を進めていくためには、直ちにできることから取り組むと同時に、核となり、先導的な役割を果たす取組を強力に推進していくことが求められる。そのためには、多様な地域主体が主体的かつ積極的に地域の活性化に取り組むとともに、その取組を有機的に関連させていくことが必要であり、そのための仕組みを構築する。

#### 推進項目

## 1 市民のまちに対する愛着(シビックプライド)の向上

本エリアに関わるより多くの人、自らのまちに対する愛着が深まるよう、まちづくりの実践や地域の魅力発信に取り組む。

## 2 まちづくりの担い手の確保・リーダーの育成

地域主体による様々な活動の紹介や、交流の場を設けることなどにより、自ら行動したいと思った人が、気軽にまちづくりに参画できる仕組みを構築し、幅広い世代、多様な関心を持った人々のまちづくりへの参加を促進する。また、まちづくりの実践、地域主体間の交流等を通じて、本エリアの活性化を牽引するリーダーを育成する。

## 3 エリアマネジメント組織の設立

エリア内の施設・団体、事業者、行政等、多様な地域主体が連携して、本エリアのまちづくりに取り組むために、人や資金等も含め、地域が主体となって、エリアマネジメント組織を設立・運営し、関係者間の連携強化やまちづくりへの参加の促進、コーディネート、事業の企画立案、効果的な情報発信等に取り組む。

本エリアにおける多様な地域主体の動きを、エリアマネジメント組織の設立につなげ、より多くの、より多様な地域主体が趣旨に賛同し、参画し、様々な取組を実現する組織に発展させていく。

### 3 8つの方策

#### 方策 ①

## 緑やうるおいを感じられるまちなか居住の推進

本エリアに住み続けたい、住んでみたいと思う人を増やすために、日常生活に必要な小売店舗や医療・福祉施設等が充実している状況を存続させながら、より一層魅力的な居住環境の創出に取り組みるとともに、住民同士がつながり、おもいやり、地域の皆で築く暮らしやすいまちを目指す。

#### 推進項目

### 1 居住環境の向上

七条通付近におけるJR新駅の設置により、地域住民の利便性向上を図るとともに、歩行者空間の改善や憩いの場所としての公園の整備・活用の促進等により、居住環境のより一層の向上を図る。

### 2 空き家等の活用・流通の促進

空き家の活用を促す諸制度の運用等による町家の活用や、京都らしい共同住宅の整備の促進に取り組み、医療・福祉、商業等、生活利便施設のより一層の充実を図るとともに、幅広い世代の多様なニーズに応えることができる新たな居住空間を創出する。

#### ◆糸でつながる33mのマーケット「itonowa」(イトノワ)◆

島原界わいに新たな文化・交流スポットを作り、地域の活性化を目指す取組。2軒の空き家とその間の中庭をひとつなぎで活用し、「衣」(衣服)を扱う若手作家のためのアトリエショップ、住民・観光客が憩えるカフェなどを設ける(平成26年度の京都市「空き家活用×まちづくり」モデル・プロジェクトに選定)。

「itonowa」イメージ



### 3 地域コミュニティの活性化

以前から暮らしている居住者と新たに転入してきた居住者との調和を図りながら、地域住民相互のつながりを強化し、互いに支え合い、安心して快適に暮らすことができる地域コミュニティを実現するまちを創出する。

### 4 地域課題の解決に向けた仕組みづくり

NPOやボランティア組織など様々な分野ごとの市民活動団体と、自治会等の地域団体が、役割を補完し合いながら連携して、高齢者の生活支援や生きがい創出、子育て支援等、地域の課題解決に向けて取り組む。

平成 28 年春の京都鉄道博物館の開業や平成 31 年春の七条通付近における JR 新駅の設置により、憩いと賑わいの一大拠点へと進化を遂げつつある梅小路公園の魅力を高め、更なる人の流れを生み出すことにより、本エリアの活性化を牽引する。



【梅小路公園マップ】

推進項目

1 緑豊かな憩いの空間としての利用

より多くの方に、街中では貴重な、生物多様性に富んだ、豊かな緑の織りなす自然空間を体感していただくため、「朱雀の庭」「いのちの森」の魅力の発信や、公園の自然をいかした環境教育の充実等に取り組む。

2 公園の多様な活用による賑わいの創出

公園管理者、公園施設の運営事業者、エリア内の事業者・団体等が連携し、京都水族館・京都鉄道博物館に加えた、更なる賑わいを創出する。例えば、高齢者向け健康教室や子育てサロン等、日常生活に彩りを添える様々な活動での活用を促進するとともに、ライトアップやマルシェ等、夜間や冬期の集客につなげるイベントを実施する。

### 3 総合案内所の機能強化

外国語対応が可能なスタッフの配置や外国語の案内パンフレットの配布など、園内にある総合案内所の機能強化を図り、園内・本エリア内だけでなく、市内の他のエリアの様々な施設やイベント情報も含めた総合案内を行う。

### 4 利用者が快適で楽しく過ごすための施設整備

バリアフリーに配慮したトイレや休憩場所の整備、モニュメントの設置、案内表示の改善等に取り組み、公園利用者がより快適で楽しく過ごせる環境を整える。

### 5 広域的防災機能の維持・強化

公園施設の運営事業者との連携強化を含め、災害時に市民や来訪者の安心・安全を確保する広域避難場所としての空間・機能を維持・強化する。

### 6 利用者ニーズの把握

公園利用者のニーズを定期的に調査し、ソフト・ハード両面にわたる公園の機能向上にいかす。

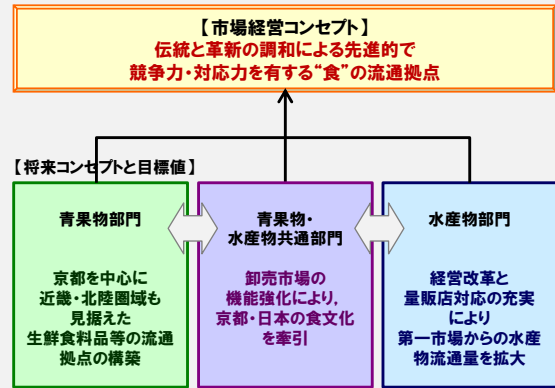
京都市中央市場直送の強みをいかし、本エリア内の様々な事業者・団体が連携し、京都・日本の食文化を牽引する。

推進項目

### 1 「食」の流通拠点としての京都市中央市場の機能強化

「伝統と革新の調和による先進的で競争力・対応力を有する「食」の流通拠点」を市場経営のコンセプトとして、経営改革や人の育成、施設整備などに取り組む。

#### 京都市中央市場の市場経営コンセプト



### 2 京都・日本の食文化の魅力発信

外国人観光客も含めた、より多くの人に京都・日本の食文化の魅力を知っていただけるよう、京都市中央市場の安心・安全な食材や、京の食文化ミュージアム・あじわい館、KYOCA（京果会館）を活用した食育、料理教室等を通して、魅力を発信する。

### 3 「食」に関するイベントの開催

本エリア内の様々な事業者や団体等が連携し、京都市中央市場直送の強みをいかした特色あるイベントを開催する。

マルシェの開催イメージ



人口の増加や集客施設の整備，七条通付近におけるJR新駅の設置により，新たな人の流れが生まれることを好機と捉え，商店街が活性化に主体的に取り組むとともに，行政，地域が支援する。また，地域コミュニティの重要な担い手としての役割を果たす。



### 推進項目

## 1 地域住民の利用促進

地域住民のニーズの把握に努めながら，対面販売の良さや，きめ細やかな対応が可能であるといった商店街の強みをいかし，地域住民の利用促進を図る。

## 2 来訪者の呼び込み

京都水族館や京都鉄道博物館等，近隣の大型集客施設への来訪者を商店街にも呼び込むため，飲食店の充実や周辺施設との連携に取り組む。また，外国人観光客を呼び込むために，免税店の開設等にも取り組む。



### 3 空き店舗の活用による新たな事業者の誘致

今後、JR新駅や大型施設周辺の商店街においては、空き店舗情報の掘り起し、所有者と開業希望者とのマッチング、リノベーション業者との連携等の取組により、若者を呼び込める施設等、客層の拡大につながる特色ある店舗の集積を図る。

### 4 商店街と賑わいゾーン等の連携による地域経済循環モデルの構築

京都市中央市場整備に伴う「賑わいゾーン」と、商店街等が相乗効果を発揮し、多様な地域主体に好影響をもたらす「地域でお金が回る仕組み」の構築を目指す。

### 5 商店街の雰囲気を楽しめる歩行者空間の創出

誰もが安心・安全に商店街での買い物を楽しめる環境を整えるほか、訪れる人の目を楽しませる仕掛けづくりに取り組む。

### 6 地域コミュニティへの貢献

商店街での人と人との日々の交流や児童の就業体験学習等を通じて、住民相互のつながり、地域の絆を強化し、地域コミュニティの活性化を図る。また、商店街の人々が買い物客や通行者に日常的に声を掛けることで、犯罪や事故が未然に防げる、あるいは、本エリアへの来訪者を案内するといった、商店街が有する付加的な機能の大切さを改めて認識する。

児童の就業体験(梅小路いきいき学習)

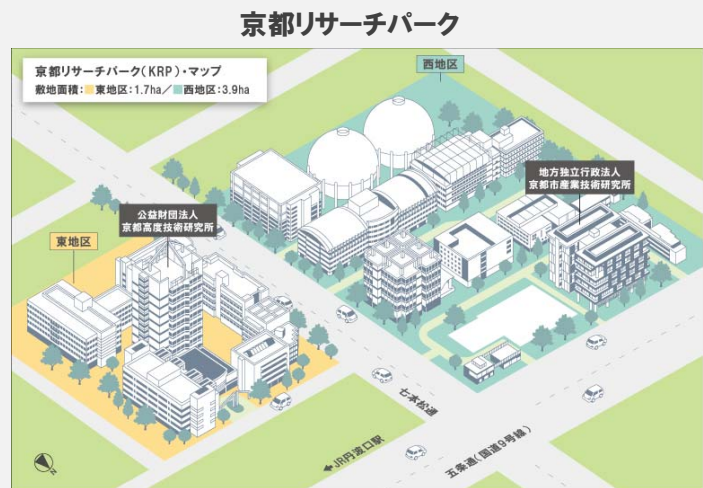


本エリアの集客・居住のポテンシャルの高まりも一つの契機としながら、KRPを核に、新産業の創出につながる取組を展開する。

推進項目

## 1 KRPを中心とした産業クラスターの形成

KRP内だけでなく、その周辺にも民間事業者や研究機関の更なる集積を促進するために、KRPの機能強化に取り組むとともに、事業者等の進出機運を高めるような都市計画の見直しについても検討する。

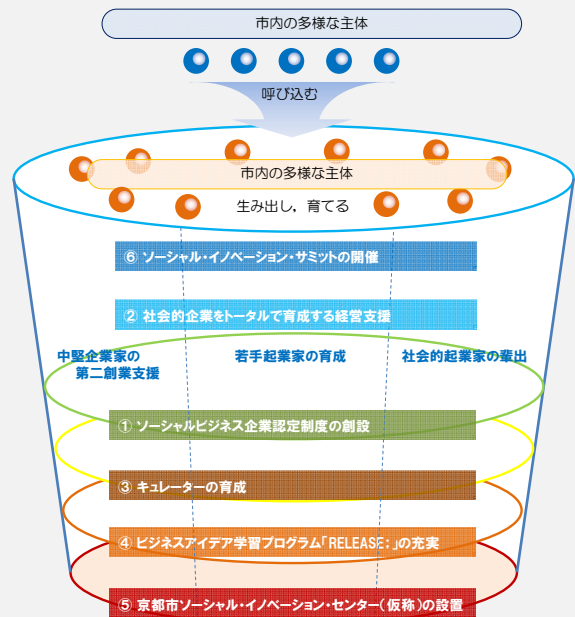


## 2 新たな事業の創出

地方独立行政法人京都市産業技術研究所や公益財団法人京都高度技術研究所等の産業支援機関が集積するKRPの強みをいかし、周辺の施設・事業者等が、KRPの様々な機能・技術力・支援制度等を積極的に活用し、新たな事業の創出に取り組む。

特に、環境や地域の活性化などの社会的課題をビジネスの手法を用いて解決する「ソーシャルビジネス」の創出に取り組み、その拠点を公益財団法人京都高度技術研究所内に設置することにより、京都のブランド力の更なる向上と地域活性化を図る（「京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想※」の推進）。

### 京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想イメージ図



※ 公益財団法人京都高度技術研究所（ASTEM）を拠点とし、社会的企業を京都から輩出、京都に集積させることにより、社会的課題の解決と京都経済の活性化を目指す。

鉄道の歴史と現在を体験できる資源が揃っていることを強みに、平成28年春の京都鉄道博物館の開業も見据えながら、「鉄道」をテーマとした特色あるまちづくりを推進する。

## 推進項目

## 1 京都鉄道博物館の開業

各時代で活躍した歴史的価値の高い実物車両約50両を備えた「見る、触る、体験する」博物館として、梅小路公園に国内最大級の京都鉄道博物館が開業することを契機に、更なる人の流れを呼び込む。

## 2 市電の魅力の継承・発信

梅小路公園内にある市電車両を用いたカフェやショップ、総合案内所において、市電の歴史やまちの変遷が分かる写真展を行うなどして、市電の魅力をより多くの人に伝える。

## 3 鉄道に関する新たな魅力の創出

鉄道をテーマとしたイベントの開催や、梅小路公園までのアクセスルート上への鉄道関係のモニュメントの設置、鉄道ファンを更に呼び込める事業者の誘致などに取り組む。

## 4 幅広い層の来訪者の呼び込み

鉄道の聖地であることを全国的に発信し、鉄道ファンをより広域的に呼び込むとともに、他の目的で本エリアを訪れた人にも、鉄道の魅力を感じていただけるよう、まち全体で鉄道を楽しめるエリアとする。

京都鉄道博物館イメージ



梅小路公園 市電ひろば



優れた地域資源の個々の魅力を高めるとともに、他のエリアの歴史・文化資源も絡めて、物語を紡ぎ、国内外にその魅力を発信する。

また、平成32年に東京五輪が開催され、海外からの来訪者もより一層増加すると見込まれることも見据えて、特に、「集客」について、インバウンド\*の視点を取り入れた取組を進める。

※ 外国人観光客の誘致

推進項目

### 1 京都市中央市場整備に伴う「賑わいゾーン」や「有効活用地」の活用

京都市中央市場水産棟整備に伴い生み出される「賑わいゾーン」については、JR新駅から至近の距離にある強みを最大限にいかし、商店街等、他の地域資源との相乗効果を追求し、「すし市場」により創出された賑わいを更に大きな人の流れとするため、新たに賑わいを創出するエリアとして、全面的に活用する。

併せて、「有効活用地」についても、平成37年度に青果棟の整備が完了することを見据え、本エリアの活性化に資する活用方法を検討する。



### 2 歴史・文化資源の保存・継承

歴史的・文化的価値の高い建造物や街並みを保存・継承していくためには、多くの人にその価値を知っていただく必要があることから、来訪者が資源の魅力に触れ、また、周辺に住む人、働く人がその魅力を改めて実感できる機会を増やす。

### 3 歴史・文化資源の新たな魅力創出

来訪者の層を拡大するとともに、リピーターを増やすため、ICT技術を活用した歴史再現や人工的な臨場感等による新たな魅力の付加や、地域主体の観光ルートの開発（着地型観光）等による、これまでとは違う視点からの魅力発信に取り組む。

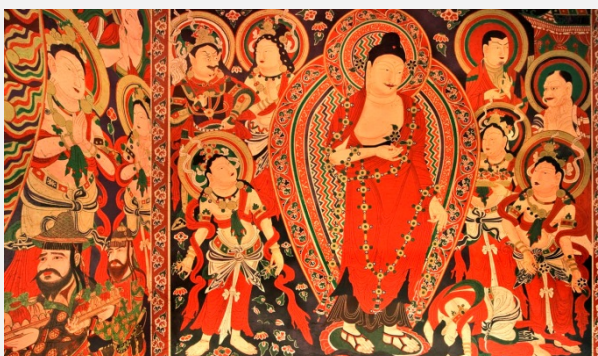
ICT技術を活用した歴史再現イメージ  
（島原太夫道中の再現イメージ）



### 4 新たな資源の魅力発信・隠れた資源の掘り起こし

平成23年4月に開館した龍谷ミュージアムなど、新たな資源の魅力の発信や、あるいは、島原の文芸碑や、龍谷大学大宮学舎といった近代建築などの隠れた資源を掘り起こし、著名な資源と関連付けながら知名度を高める等、エリア全体の見所を増やす。

龍谷ミュージアム ベセクリク石窟大回廊の復元展示



島原住吉神社



## 5 点在する魅力のネットワーク化

「新撰組」や「花街文化」,「京都市産業技術研究所や企業ミュージアム等をめぐる産業観光」など,様々な切り口で資源と資源を物語をつないだ散策モデルコースの作成や,非公開文化財の公開を目玉としたウォークツアーの実施等を通して,面的な魅力を発信する。

## 6 新たな来訪者の層の発掘

これまで歴史に興味を持てなかった人にもその魅力を発見してもらい,より幅広い層に来訪していただくため,歴史的な魅力を有する施設と,水族館・鉄道博物館のような子どもたちに人気の施設が連携した企画を実施する。

また,様々な地域資源が連携し,早朝や夜間の時間帯に楽しめる企画を実施するなど,新たな賑わいの創出に取り組む。

## 7 情報発信ツールの多言語化の推進

外国人観光客に仏教文化や日本の建築美等を十分に堪能していただけるよう,マップ型情報冊子や案内板等の多言語化に取り組む。

本エリアの活性化の取組を推進することで、エリア内の低・未利用地の使用価値・可能性が一層高まることを契機として、地域の活性化に資する土地の有効利用を促進する。

なお、土地の利用に当たっては、周辺の景観との調和等にも十分配慮する。

### 推進項目

## 1 地域の特性に応じた施設の誘致

京都駅周辺においては、大規模災害時の一時滞在施設の設置や、商業・業務等の施設の誘導を図るとともに、梅小路公園（JR新駅）周辺においては、本エリアの活性化に伴う新たな人の流れに対応するため、都市計画の見直しを含めた検討等を進めるなど、それぞれの地域の特性に考慮しつつ、その土地にふさわしい施設の誘致に積極的に取り組む。

## 2 多様な活用方法の検討

親子連れをはじめとする来訪者が、京都駅から梅小路公園まで楽しみながら歩くことができるよう、ベンチやモニュメント、バナーフラッグを設置するなど、敷地の中の小規模な空きスペースも有効に活用する。また、イベントの開催など、低・未利用地の臨時的な活用にも積極的に取り組む。

## IV 進捗管理

### ■ PDCAによる進捗管理

様々な主体が将来ビジョンを共有し、本エリアの活性化の取組を効果的かつ効率的に進めていくため、指標を設定して、事業の進捗状況や実施効果等を的確に把握し、それに基づいた施策の改善・見直しを行う（PDCA※による管理）。

※ PDCA = Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の4段階の活動の繰り返しによる継続的な業務改善

### ■ 指 標

#### 活性化イメージ1 「全ての居住者が安心して暮らし、文化を楽しむまち」

より多くの方に本エリアの居住の魅力を実感していただき、本エリアに住み続けたい、住んでみたいと思う人が増えるよう、「**京都駅西部エリアの居住環境に満足する人の割合**」を指標とし、毎年着実に評価を向上させる。

（調査方法）アンケート調査

#### 活性化イメージ2 「新しいビジネス・活気を生み出すまち」

より多くの事業者に、本エリアで事業活動を行うことの利点を知っていただき、本エリアで事業活動を行う事業者が増えるよう、「**京都駅西部エリアの事業所数**」を指標とし、全市的に事業所数が低下傾向にあるが、増加を目指す（平成24年経済センサス活動調査：4,420事業所）。

（調査方法）統計調査

#### 活性化イメージ3 「幅広い世代の人々が多く集まり、楽しめるまち」

国内外を問わず、より多くの人に本エリアを訪れ、多彩な魅力を知っていただき、本エリアのファンが増えるよう、「**京都駅西部エリアを再び訪れたいと思う人の割合(再来訪意向)**」を指標とし、毎年着実に評価を向上させる。

（調査方法）アンケート調査



## 1 検討経過

平成26年 6月	10日	<b>第1回策定委員会</b> 本エリアの現状認識及び課題，将来像について意見交換を行った。
7月		
8月	1日	<b>第2回策定委員会</b> 本エリアの現状，ポテンシャル・課題を分析した結果を報告し，今後の方向性について，意見交換を行った。併せて，現地視察会を開催した。
9月	12日	<b>第3回策定委員会</b> 「京都駅西部エリア活性化将来構想 素案」について審議した。
10月		
11月		
12月	19日	<b>第4回策定委員会</b> 「京都駅西部エリア活性化将来構想（案）」について審議した
平成27年 1月		
2月	10日～	<b>京都駅西部エリア活性化将来構想(案)</b> <b>に関する市民意見募集</b> （～3月11日）
3月	17日	<b>第5回策定委員会</b> 市民意見募集の結果を報告し，「京都駅西部エリア活性化将来構想 答申」について審議した。
	25日	<b>京都駅西部エリア活性化将来構想 答申</b>
	30日	<b>京都駅西部エリア活性化将来構想 策定</b>

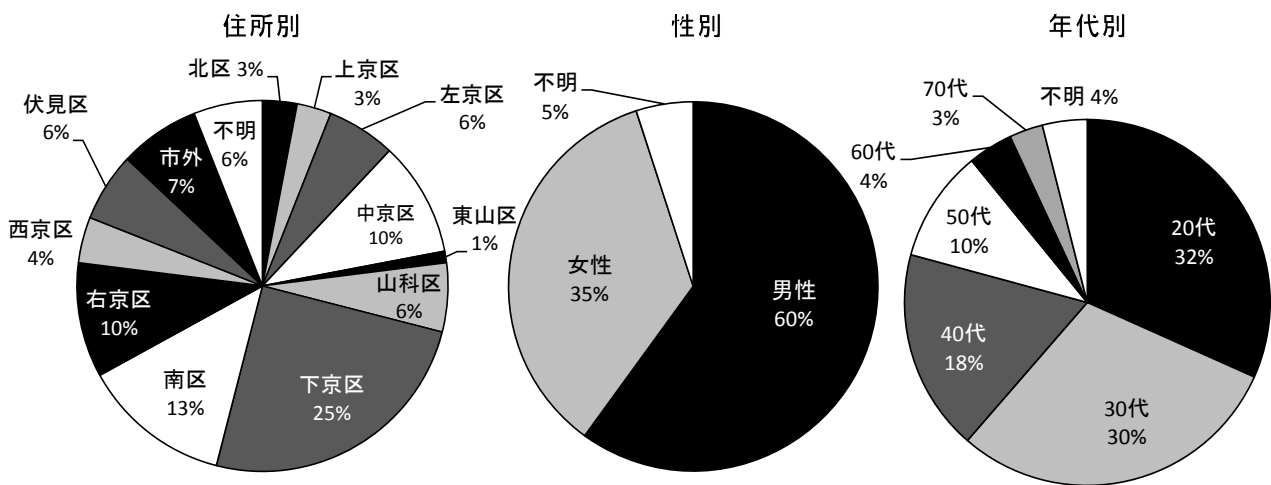
## 2 市民意見の募集

### 募集概要

- ◆趣旨／京都駅西部エリア活性化将来構想（案）について、広く市民意見を募集
- ◆募集方法／持参，郵送，ファクシミリ又は電子メール
- ◆募集期間／平成27年2月10日（火）～同年3月11日（水）

### 結果概要

- ◆意見総数／193名の方から，419件の意見が提出



### 寄せられた意見の分類と件数

分類	件数
構想策定の基本事項や将来ビジョン等	54
仕組み①：人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現する交通戦略	170
仕組み②：京都ならではの地域力・市民力をいかした「まちづくりの仕組み」の構築	7
方 策①：緑やうるおいを感じられるまちなか居住の推進	12
方 策②：梅小路公園の拠点機能の強化	43
方 策③：京都・日本の食文化の牽引	13
方 策④：地域に密着した商店街の活性化	38
方 策⑤：KRPを核とした新事業・ソーシャルビジネスの創出	1
方 策⑥：鉄道の聖地としての飛躍	15
方 策⑦：新たな地域資源の創出と歴史・文化資源の継承	38
方 策⑧：低・未利用地（公有地・民有地問わず）の戦略的活用の促進	16
進捗管理	3
その他	9
合 計	419

### 3 京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会 委員名簿

	氏名	役職等
委員長	どい つとむ 土井 勉	京都大学大学院工学研究科 特定教授
委員 (五十音順)	あすま のりあき 東 憲昭	京都商工会議所 地域開発・都市整備委員会 副委員長 (京都駅ビル開発株式会社 代表取締役社長)
	あらかわ あけみ 荒川 朱美	京都造形芸術大学環境デザイン学科 教授
	いけもと しゅうぞう 池本 周三	京都市中央卸売市場協会 会長 (京都全魚類卸協同組合 理事長)
	いちむら まさる 市村 勝	梅小路活性化委員会 委員長
	うちだ たかし 内田 隆	京都市中央卸売市場協会 副会長 (京都青果合同株式会社 代表取締役社長)
	おおしま さちこ 大島 祥子	一級建築士事務所 スーク創生事務所 代表
	おおはま いくえ 大濱 育恵	市民公募委員
	かわはら ちかよ 川原 ちかよ	エフエム京都DJ
	こにし まさゆき 小西 雅之	大阪ガス株式会社 常務執行役員 京滋地区総支配人
	すぎもと せつこ 杉本 節子	公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会 常務理事 料理研究家
	にいやま ようこ 新山 陽子	京都大学大学院農学研究科 教授
	にしむら ためひこ 西村 為彦	七条学区自治連合会 会長
	ほんまさ かずよし 本政 和好	大内学区自治連合会 会長

(敬称略)

平成27年(2015年)3月

発行 京都市総合企画局市民協働政策推進室

TEL 075-222-3176



京都市印刷物 第263298号